

日本製品は今なればこそ、世界に冠絶する質の高きを以てその名高けれ。一九六十年代初頭にアメリカの中學校に通ひしころは、日本の商品といへば、クリスマス飾り付け等安もの多く、せいぜいトランジスタ・ラジオなりき。木と紙で作られし家に住んでゐるやとか、チョンマゲ結びて刀を下げてゐるやとか、途方もなき質問にも遭遇しき。とりわき不快に覺えたるは、
“Remember Pearl Harbor”なりき。米國の生活も慣れたる一年後、日本のオートバイ賣れ始め、特にビーチボーイズの歌「ホンダ、ホンダ、ホンダ」等と連呼するによりて、いよいよ市場を擴大したりとの由。我、嬉しくクラスメートにホンダは日本製なりと言ひたれば、なんでふかかることのありうべき、日本製品は悉く劣悪なりと反論せられ、大喧嘩ぐらんくわになりき。當時日本大使館の參事官なりし父に相談せしに、最近制作せられたる日本經濟に關する短き映畫があれば、社會科のクラスにて見するは如何といふ。翌週、社會科の先生に提案したるに、贊意を表し給ひけり。映畫の冒頭はハイヒール履きたる脚線美の闊歩しかうする情景なり。而して、ヤマハのモーターボート、カワサキのオートバイなど、日本の誇りたる高品質の製品を次々紹介してあり。ストーリーは既に忘卻かなたの彼方あなたにあれど、凄まじき勢すさひを以て日本經濟の急成長したるを見する映畫なりき。クラスメートが驚きたるは言ふに及ばざれども、先生さへ驚き、全校生徒に見するに至れり。高品質の製品少なからずとの趣旨を納得せしめたり。今日にてはありうべからざることなり。